第３部　教科研究、特別研究

Ⅰ.

doi: 10.18999/bulsea.63.155

第７回西尾市岩瀬文庫見学会

加　藤　直　志

【抄録】 希望者を対象に、西尾市岩瀬文庫の見学会を実施した。学芸員や大学教授の先生から、岩瀬文庫の紹介や古典籍調査についてのお話を伺ったあと、実際に同文庫が収蔵する古典籍の一部を手にとって閲覧させていただいた。文法中心の、通常の古典の授業では学べない、我が国の書物文化について伝えようとする企画であった。また、生物学の源流ともいえる、本草学関係の本を閲覧したり、特別展で蛾の標本を見学したりと、文理の枠にとらわれない幅の広い学習の機会となった。

【キーワード】 西尾市岩瀬文庫　古典籍　伝統的な言語文化　SSH　生物

平成29年７月27日（木）、SSHの一環として、第７回西尾市岩瀬文庫見学会を開催した。国語科・加藤直志、社会科・曽我雄司、理科（生物）・齋藤瞳、および英語科・仲田恵子の４名で引率した。事前に参加希望者を募り、当日は、中１～高２までの希望者24名が参加した。年々参加希望者が増えており、20名を超えたのは、初めてのことである。

岩瀬文庫は、1908（明治41）年に、西尾市の実業家岩瀬弥助が設立した私立図書館が起源で、戦後西尾市の施設となり、現在に至っている。同文庫には、『後奈良天皇宸翰般若心経』（重要文化財）、『枕草紙』（岩波書店の日本古典文学大系『枕草子』の底本）をはじめとする貴重な蔵書が約８万冊収蔵されている。

同文庫では、平成12年度より、新目録完成を目指した平成悉皆調査を実施しており、筆者が学生時代にその調査に参加していた。その縁もあり、同文庫主任主査学芸員の林知左子先生、同学芸員青木眞美先生、同文庫資料調査会会長で名古屋大学大学院文学研究科教授の塩村耕先生のご協力のもと行った。

午前中、林先生から、岩瀬文庫の説明、古典籍についての講義などをしていただきました。午後は、塩村先生から古典籍の学術調査に関する講義を拝聴したりした後、実際に古典籍を手にとって見せていただいた。『本草図説』、『枕草子』のほか、『伊勢物語』『源氏物語』などを閲覧した。また、今年度は初の試みとして、旧書庫（国登録有形文化財）および新収蔵庫（どちらも通常非公開）を案内していただくこともできた。昼休みには、喫茶室で西尾名物の抹茶を注文するなど、参加した生徒達にとっては、古典籍以外でも楽しい一日になったようである。来年度以降も、可能であれば同様の企画を続けていきたいと考えている。

参加した生徒の感想（一部）

蝉の鳴き声が元気に響き渡る中、私たちは西尾市の歴史ある図書館、「岩瀬文庫」を訪ねました。

岩瀬文庫は、明治41（1908）年に実業家の岩瀬弥助さんが、書物を通じた社会貢献と書物の恒久保存を願って独力で建てた図書館です。この岩瀬文庫には、大きな特長が２つあります。まず１つ目は、18歳以上なら、貴重な古典籍に触れて学ぶことができることです。これは、他の図書館では体験できないと思います。２つ目は、旧書庫が残っていることです。これは、戦争や地震を乗り越えてきた岩瀬文庫の象徴だと思います。そんな特長を持っている岩瀬文庫で、私は初心者でも読み易い本を見つけました。それは、「伊勢物語」です。この本は、平仮名やさし絵が多く、話も面白いので、おすすめです。また、休憩室では、西尾抹茶を飲むことができるので、疲れた時にうってつけだと思います。そんな岩瀬文庫で私が学んだことは、岩瀬弥助さんの親切にする心と、熱心に取り組むことです。自分だけのために何かするのではなく、他人のことも思いやって、それを熱心に取り組むことに意味があると学びました。

歴史、文化、大切にするべきことを学べた岩瀬文庫を、また訪ねたいと思いました。　（中学１年生・女子）

西尾市岩瀬文庫見学会参加者の皆さんへ

当日（7月27日）のタイムスケジュール

８：５０　集合（時間厳守！）
　　名鉄金山駅中央改札口
９：０９　金山駅発　特急（一部特別車）豊橋行き
９：２９　新安城着
９：３７　新安城発　普通西尾行き
９：５８　西尾口着
　　徒歩（暑いかもしれないので飲み物持参がよいかも）
１０：１５　岩瀬文庫着
１０：１５～１２：００　岩瀬文庫の紹介・古典籍についてのお話
　　（岩瀬文庫主任主査学芸員　林　知左子　先生）
１２：００～１３：００　昼食休憩
　　※周辺の飲食店へ行く、お弁当を公園で食べるなど自由行動。ただし、コンビニや飲食店はやや遠い。文庫内の喫茶室で持参したお弁当を食べることは可。喫茶室では西尾名物の抹茶などを飲むことができます（有料）。
１３：００～　１班　閲覧室で資料閲覧
　　（岩瀬文庫主任主査学芸員　林　知左子　先生）
　　２班　「岩瀬文庫平成悉皆（しっかい）調査」についてのお話
　　（名古屋大学大学院文学研究科教授　塩村　耕　先生）
　　旧書庫（国登録有形文化財）および新収蔵庫の見学
※今年度は参加人数が多いため、１班と２班に分けて交代制にします。

※閲覧室そのものは、午後４時まで開室しています。例年、４時まで本を見る人と少し早めに帰る人に分かれて帰ります。早めに帰る場合、金山駅に着くのは、午後４時過ぎくらい、最後まで残った場合は午後５時過ぎくらいになります。保護者の方に予定を伝えておくこと（特に中学生）。

持ち物・服装

制服着用、昼食（近隣の飲食店やコンビニを利用してもよいが、やや遠い）、道中暑いかもしれないので飲み物、筆記用具（鉛筆）、自宅から金山駅までの交通費（金山以降は、SSH の予算で支払われます。自分で切符を買わないこと。）
古典籍に触れますので、爪は切っておくこと。指輪、時計はその場で外してもらいます。

その他

当日、急病などで欠席する場合は、８時３０分までに学校に電話してください。
台風接近などの際にはやむをえず中止する場合もあります。その場合は、学校のホームページに掲載します。